

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 30 日現在

機関番号：82720

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25871221

研究課題名(和文) 聖教資料に基づく中世神道説の展開に関する総合的研究

研究課題名(英文) A study on the development of medieval Shinto theory based on books possessed in a temple

研究代表者

高橋 悠介 (Takahashi, Yusuke)

神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員

研究者番号：40551502

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：称名寺(横浜市金沢区)所蔵・神奈川県立金沢文庫保管の寺院聖教中の中世神道関係資料を中心に調査を行い、寺院文化圏内で形成された中世神道説について研究した。『諸社口決』等、重要な神道関係資料については全文を翻刻し、解題を付して公開した。また、神奈川県立金沢文庫における特別展「中世密教と玉体安穩の祈り」(二〇一四年)・「仏教説話の世界」(二〇一五年)において、研究成果の一端を公開した。

研究成果の概要(英文)：I mainly investigated the books about medieval-times Shintoism in the literature possessed by Shomyo-ji in Kanazawa-ku, Yokohama-shi. I searched about the Shintoism theory formed in the temple at medieval times. I decoded the contents of the important Shintoism document and published the text together with description. I showed results of research in exhibition held in Kanagawa Prefectural Kanazawa-bunko museum.

研究分野：日本文学

キーワード：中世神道

1. 研究開始当初の背景

近年、特に思想史の分野で、中世神道説研究の進展が著しく、伊藤聡氏・原克昭氏・舩田淳一氏・鈴木英之氏などによる研究書が相次いで刊行されている。一方、中世文学研究においても、文芸生成の媒体として古典注釈学の重要性が認識されるようになって以来、特に記紀にはみえないような神話言説にも注目が集まり、思想史研究とも相互に交渉し合うような研究状況が生まれている。

実は、中世にこうした神道説や豊饒な説話世界の生成を主導したのは、僧が行った日本紀注釈や神話叙述であり、寺院文化圏が文学や芸能の母胎の一つとして注目される。

中世神道説に関する資料の中でも、称名寺聖教中の神道関係資料は、朝廷における国家祭祀の神祇信仰とは別の原理により寺院文化圏内で生成・享受された中世神道説をうかがわせる貴重な資料群である。

平成二十二年度より科学研究費補助金・若手研究(B)「聖教資料に基づく中世神道説の生成と展開に関する研究」(平成二十四年度まで)の交付を受け、称名寺聖教と関連資料の調査を行った。その中で新出資料も多数見出すことができ、こうした調査研究を継続する必要性を痛感した。そこで同課題を発展的に継承する研究課題として、より広い視野から寺院において生成した神道説について調査研究する計画を立てた。

2. 研究の目的

本研究では、寺院文化圏における中世神道説の展開を分析し、その背景や、関係する説話・図像などとの有機的連関を解明することを目的とする。金沢文庫保管称名寺聖教中の鎌倉・南北朝期に書写された二百以上にのぼる神道関係資料の調査を中心に、関連する文芸・図像資料をも調査対象とし、中世神道説の展開の総合的な理解を目指す。特に注目すべき資料は、良質な翻刻本文を提供すると共に、儀礼的・教説的背景から文芸・図像にわたる展開の諸相までを視野に入れた総合的な研究を行い、中世神道説が持っている世界の広がりとその意義を明らかにする。

3. 研究の方法

寺院文化圏における中世神道説の展開を解明するための基礎作業として、まず称名寺聖教全体を見直し、原本調査と写真撮影により、神道関係資料の書誌データを拡充する。さらに、中世神道関係資料の古写本を所蔵する他の寺社や関連機関の調査を行い、関連資料を比較することにより、中世神道説の展開とその背景や広がりについて研究を深める。調査対象には、血脈や図像資料など多様な資料が含まれ、一点一点を見ているだけではわからない資料のまとまりや伝授・相承の背景

なども解明していく。特に注目すべき資料については、全文翻刻を行い、解題を付して公にし、広く研究者が用いることができる良質な本文を提供する。

また、神祇説話や芸能などに展開した中世神道説の広がりとその背景を明らかにし、儀礼や教説との関係、図像と文献資料との有機的連関を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 称名寺聖教中の中世神道資料の調査・撮影:

「金沢文庫現存神道関係資料総目録」(津田徹英氏作成、平成八年)や、若手研究(B)「聖教資料に基づく中世神道説の生成と展開に関する研究」(研究代表者:高橋悠介、平成二十二~二十四年度)の成果を参照しつつ称名寺聖教全体を見直し、中世神道資料の調査と写真撮影を進め、書誌データ・画像データを集積した。

(2) 中世神道資料の古写本を所蔵する機関の調査と研究:

中世神道資料の古写本を所蔵する機関の調査と研究:尊経閣文庫に所蔵される『両宮形文深釈』・『神性東通記』・『天照大神御天降和記』・『天照大神儀軌』等、(称名寺旧蔵書を含む)中世神祇書類について書誌調査を行い、本文を検討した。また、叡山文庫に所蔵される『山家要略記』『山家最略記』の伝本を閲覧調査し、称名寺聖教中の『山家最略記』など関連資料との関係について検討した。

(3) 中世神道に關係する重要資料の研究と翻刻:

称名寺の二世長老鈿阿に神祇書類を相伝した秀範という僧がいる。秀範は称名寺の神祇書類全体を考える上で最重要人物であるのみならず、御流神道の祖とも目される僧である。本研究では、特にこの秀範に焦点を当て、秀範自筆の『諸社口決』(応長二年〔一三一二〕二月奥書)について『金沢文庫研究』に翻刻と解題を執筆し、『日本記三輪流』(真福寺蔵本・石川透氏蔵本)や、神宮文庫蔵・道祥写『神道切紙』、國學院大學図書館宮地直一コレクション蔵『諸大事』(真福寺四世政祝の切紙を整理した本の転写本)などとの関係についても検討した。他に、秀範自筆の神祇書としては、称名寺聖教中に『日本得名』や『大神宮一長谷秘決』という(同寸で每半葉七行の折本という共通性を持ち、一結の伝授書であったと思われる)資料が見出せるが、これらはみな、秀範が本文を書き、鈿阿が外題を書いているという特徴も明らかになった。

また、『大神宮本縁』『大神宮一長谷秘決』『伊勢大神宮御体』といった称名寺の神祇書類にみえる天照大神・愛染明王・十一面観音の習合説の教説的背景は『異本大事』に詳しいが、その内容がどのようにして成立したのかについては、本文の一部が『愛染^{十一面法}』と

近いことから、『異本大事』のような内容が神祇書として形成される過程、また天照大神・愛染明王・十一面観音合尊ともいべき神祇灌頂の本尊像の成立過程が明らかになってきた。以上の成果については、金沢貞将書状を紙背として書かれた神祇書『天照大神宝鏡等私』の分析も含め、「称名寺の神祇書形成の一端」(福島金治編『生活と文化の歴史学9学芸と文芸』竹林舎)に執筆した。

また、称名寺聖教の中に、表紙に千字文が記された一群の特徴的な説草があり、その中で千字文「金」が記された一群は、山王神などにまつわる神祇関係の説草となっている。千字文説草全体の成立背景について、『金沢文庫研究』に論文を書くと共に、千字文「金」が記された一群の説草の翻刻を行った。その翻刻の一部は、後述する展覧会「仏教説話の世界」の図録に掲載した。

さらに、蒙古襲来期の建治三年(一二七七)に鶴岡八幡宮で宝珠が制作された際の記録『某宝次第 西西』について、三本の伝本を調査した上で『金沢文庫研究』に翻刻と解題を掲載し、その経緯や背景を『日本仏教総合研究』に執筆した。宝珠信仰は、とりわけ院政期に王権と関わりつつ真言密教の体系の中核に据えられ、中世神道説の中でも重要な役割を果たしてきた。こうした宝珠信仰の鎌倉時代・東国における展開や、神祇信仰とも関わる一面について研究を深めた。

(4) 芸能の基盤としての中世神道説研究：

金春禅竹の能楽論を通して、中世宗教思想と芸能の関係を考察する研究書『禅竹能楽論の世界』を、慶應義塾大学出版会から刊行した。同書の中では、金春禅竹の翁論『明宿集』などをもとに猿楽の芸能神について論じ、そこにおいて神仏習合的な尊格である荒神が重要な役割を果たしていることなどを明らかにした。

(5) 研究成果を含む展覧会の開催：

平成二十六年二月二十日～同四月二十日まで、神奈川県立金沢文庫で開催した特別展「中世密教と 玉体安穩 の祈り」と同展の図録では、「中世神道説の展開」という章を設け、天皇をめぐる密教儀礼と中世神道説の関わりについての研究成果を公開した。この特別展では、「天照大神宝鏡等私」「二間観音後七日灌頂大事」「大神宮一長谷秘決」「諸社口決」「jaH-jah 口決」「法劔図」「八幡宮図并社例」などの、中世神道説と関わる聖教を展示し、その意義を解説した。特に寺院圏で生成した中世神道説において、仁寿殿観音供で祀られる天皇の本尊の観音像と、内侍所の鏡や天照大神が結びついている様相などを考察した。

また、平成二十七年十月二日～十一月十五日に神奈川県立金沢文庫で開催した特別展「仏教説話の世界」においては、「神仏の霊験と寺社縁起」という章を中心に、神祇に関わる説話が記された説草を展示した。具体的には、称名寺聖教のうち、春日社関係の説草

や、神祇を主題とする千字文説草の一部を展示すると共に、図録においてそれらの写真と翻刻、解説を掲載し、研究成果の一端を公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

高橋悠介、「『某宝次第 西西』翻刻・解題」、『金沢文庫研究』(神奈川県立金沢文庫)、査読無、336号、22-37頁、2016年

高橋悠介、「建治三年の宝珠制作」、『日本仏教総合研究』(日本仏教総合研究学会)、査読有、13号、67-86頁、2015年

高橋悠介、「称名寺の千字文説草と杉本寺」、『金沢文庫研究』、査読無、334号、16-27頁、2015年

高橋悠介、「金沢文庫の中世神道資料『諸社口決』一結 翻刻」、『金沢文庫研究』(神奈川県立金沢文庫)、査読無、335号、39-43頁、2015年

高橋悠介、「弁暁の説草と東大寺大仏再建」、特別展図録『東大寺 鎌倉再建と華嚴興隆』(神奈川県立金沢文庫)、査読無、97-99頁、2013年

[学会発表](計6件)

高橋悠介、「宗教的身体観と能」、能楽学会第14回大会シンポジウム「能の宗教的環境」、2015年6月21日、早稲田大学小野記念講堂(東京都新宿区)

高橋悠介、「建治三年の宝珠制作」、日本仏教総合研究学会第13回大会、2014年12月13日、立正大学大崎校舎(東京都品川区)

高橋悠介、「金春禅竹の交流圏と翁論『明宿集』を通して」、シンポジウム：金春家文書の世界 文書が語る金春家の歩み、2014年9月15日、法政大学ポアソナードタワー二十六階スカイホール(東京都千代田区)

高橋悠介、「Development of Formation of Aizen Myoo and Remaining Examples in Europe」(愛染明王の造形の展開と在欧遺例)、the 14th EAJIS Conference in 2014、2014年8月29日、リュブリャナ大学(Ljubljana, Slovenia)

高橋悠介、「伝憲深撰『灌頂印明口決』について」、東アジア仏教研究会第23回定例研究会、2014年5月17日、大正大学(東京都豊島区)

高橋悠介、「宝珠造立とその系譜」、寺社縁起研究会第113回例会シンポジウム、2014年3月16日、神奈川県立金沢文庫(神奈川県横浜市金沢区)

研究者番号：

〔図書〕(計5件)

高橋悠介、「称名寺の神祇書形成の一端」、
福島金治編『生活と文化の歴史学9学芸
と文芸』(竹林舎) 486-506頁、2016年
夏刊行予定
高橋悠介編、特別展図録『仏教説話の世界』(神奈川県立金沢文庫) 全120頁、
2015年
大橋直義・藤巻和宏・高橋悠介編、アジ
ア遊学174『中世寺社の空間・テキスト・
技芸 「寺社圏」のパースペクティヴ』
(勉誠出版) 全271頁、2014年
高橋悠介、『禅竹能楽論の世界』(慶應義
塾大学出版会) 全472頁、2014年
高橋悠介編、特別展図録『中世密教と玉
体安穩の祈り』(神奈川県立金沢文庫)
全64頁、2014年

(4)研究協力者

()

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

高橋 悠介 (TAKAHASHI, Yusuke)

神奈川県立金沢文庫・学芸課・学芸員

研究者番号：40551502

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()